

旧赤松家だより

令和元年 5月 15日



新緑がまぶしく、さわやかな風が心地よい季節になりました。旧赤松家の庭内も花木がだんだんと華やかになってきました。庭内の散策はいかがでしょう。

「磐田市史」によると、赤松則良は明治2年(1869)、自らの資産を投入し、磐田原の土地を購入、叔父の宮崎泰道みやざきやすみちに開墾を命じ、茶園経営を始めました。

明治7年(1874)までに秣場まぐさばとなっていた向笠村岩井の西原は、3町5反が畑となり、その他にも6町1反、合計9町6反が開かれました。

また、則良の妻・貞ていの父である林洞海はやしどうかい(幕府奥医師)も宮崎を代理人として開墾を行い、赤松一族による磐田原の大規模な茶園開墾が進められました。

明治13年(1880)の新聞「函右日報」かんゆうにっぽうでは、磐田原の赤松茶園は20余町歩あり、その中はきれいで、ちょうど備後びんご畳たたみを敷いたようだと言われました。

注) 1町歩=1ヘクタール(1周200mのトラックがある学校のグラウンドくらい)

注) 秣場…牛馬の餌を刈る牧草地

今月15日から内蔵ギャラリーでは、磐田なかよし写真クラブによる『四季の風景と新幹線ドクターイエロー写真展』を開催しています。四季の風景と新幹線ドクターイエローの写真約30点を展示しています。ぜひ、ご覧ください。

内蔵ギャラリーのご案内

『四季の風景と新幹線ドクターイエロー写真展』

開催期間：5月15日(水)～5月28日(火)

*休館日 20日(月)、27日(月)

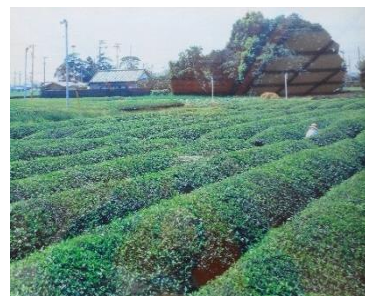
開催時間：午前9時～午後4時30分

(最終日は午後3時まで)

入場料：無料

出展者：磐田なかよし写真クラブ

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340



赤松茶園のあった岩井原の茶畑

(図説磐田市史より)



展示作品より